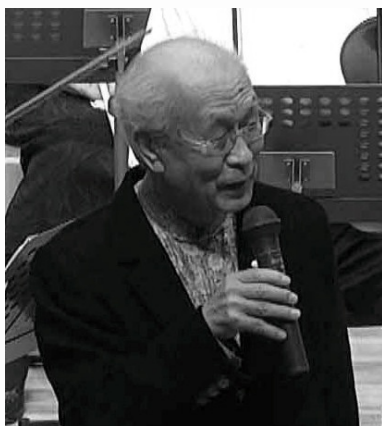


感動を呼んだ第12回全国大会

実行委員長 鈴木基司（宇都宮シルバーアンサンブル会長）

はじめに

この度の第12回全国大会には、遠路にもかかわらず早朝からのご参加、ご協力に厚く御礼申し上げます。聴衆も開場1時間前には長蛇の列ができ、開場を10分早めて入場いただき、一時は立ち見が出るほどで、その多くは最後まで席を立ちませんでした。各楽団の演奏もレベルアップしており、「多彩な演奏に魅せられ、4時間があっという間に終わってしまった。また宇都宮で開催して欲しい」という声と共に「同年代の人たちが生き生きと演奏する姿に感動し、生きる力をいただけた」という声など喜びの言葉が多く聞かれました。観客の声援は演奏する者にとって最大の喜びですが、演奏者と聴衆が一体となって盛り上げた演奏会をホストした我々一同無上の喜びです。改めて、出演された皆様に厚く御礼申し上げます、報告いたします。



決断

第12回全国大会を宇都宮で開催して欲しいと要請があり、承諾するのに時間がかかりました。

それは、私の体調（膵臓・腎臓病）の悪化を恐れたからで、家族はもとより団員も途中で倒れられたらという懸念からでした。その後、主治医の「無理をしないこと」との条件付で許可が出、団員もそれならとホスト楽団の大任をお引き受けしました。

幸い、優先予約で会場がとれ、実行委員を立ち上げ、共通理解のもと各係で冷静に仕事を進め、喜びの当日を迎えました。

願い

今回の開催は第2回目とあって心の余裕はありましたが、初心に返って「必要経費の確保」「観客動員」そして「おもてなし」を大事にした運営に努めました。これらは本団の努力なくしてはできぬもの。「赤字の場合は私たちが背負う」ことにし、「満席の会場で皆さんにいい演奏をして貰おう」と関係機関、音楽団体、愛好者連携のもと取り組みました。

予算

千葉大会に比べ出演者が減り当惑しました。チケットの収入は限界があり、協賛の名目で広告をとり増収を図りました。この時点で、全日本大会にふさわしいスポンサーが得られないか、入場料を値上げしてもいいのではないかなども考えました。支出減を図るため当日早開けでの準備をしました。

集客

1600余の客席を満杯にするため、団員への割り当て、姉妹合唱団や歌声仲間を柱に最低1000名、さらに、後援団体、協賛者、音楽関係者の招待状（券）を多数発行するなど、集客増に努めました。

マスメディアの活用のためにこまめに足を運び、今回は3新聞社（下野・朝日・読売新聞）の写真入り報道が効果を発揮しました。さらに、横須賀をはじめ参加楽団からも（85枚送付）多数お出でいただいたこともうれしいことでした。

国際交流の一環として補助金をいただき、在留外国人の演奏会招待や懇親会での演奏もあって、ささやかながら国際交流に貢献できたことを報告させていただきます。

運営

当日の運営面では、補助員共々努力したつもりですが、不備もあり、特にピアノのピッチは不測の事態でご迷惑をおかけしました。

舞台進行上のことでは要望が沢山あり集約させていただきました。ステージ転換を補助する中で、ドラムスの移動に苦労しました。

今後は、いくつかの楽器は楽器配置を特定し、参加楽団がそれに合わせて練習して来るようにすると思います。エレキはいつの会でもアンプとの接続でトラブルが発生するため、専門家を当てたのですが完全ではありませんでした。演奏者持ち込み以外には手はないのでしょうか。合同演奏では参加者希望が沢山あったにもかかわらず、ステージや準備時間の関係事務局に依頼して制限させていただきました。お陰様で、4時38分（6分遅れ）で終了できました。